

2025 年 野鳥研究 4

～和泉葛城山 Bird banding（鳥類標識調査）からわかること～

葛城中学校 1 年 毛綿谷 隆司

1. 目的

これまでの4年間の野鳥研究の成果をまとめ、さらに2025年は、葛城山で行われた25年間のBirdBanding(鳥類標識調査)の結果から分かることを調べる。

2. 動機

小学4年生のころにバードバンディングに出会った。4年間バードバンディングを見ていたなかで増えた鳥、減った鳥がいるので25年間を通してどんな変化があるのか調べたいと思った。また、その変化から環境の変化や生態系の変化がわかるかもしれないと考えたため。



3. 結果の予想

- ①ソウシチョウ(外来種の野鳥)が最近急増している。
- ②葛城山はアカゲラよりオオアカゲラの方が多い。
- ③ベニマシコやオオマシコは冬に飛来するが、温暖化の影響で暖かくなってあまり飛来しないようになっているのではないか。

4. 研究方法

- ①小学4年生からの4年間、実際に調査に参加し、鳥の捕獲・測定・足環の装着を体験した。
- ②調査員の方々から、鳥の数の増減や、渡りの時期・ルートが少しずつ変化していることを聞いた。
- ③調査員の方から聞いた過去25年間(2000年、2002年から2025年)の調査結果をもとに、どのような変化があるのかを調べた。

5. 主な結果 総捕獲数は、24 科名・55 種名・1435 羽

※2000年、2002～2025年、 ※「新」は新捕獲、「再」は再捕獲

調査年		2000年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	合計
種名																											
ソウシチョウ	新															1	3	2	29	7	1	22	20	20	15	5	125
ソウシチョウ	再																				1	1	4	3	1		10
エナガ	新	1						1	1					1	2	4		4									14
エナガ	再																										
アカゲラ	新														1												1
アカゲラ	再																										
オオアカゲラ	新			1						1	1	2	2		3		1		2	1		1		3	1		19
オオアカゲラ	再					1						1		1					2	1							6
アオゲラ	新				1	1			4	1	3	1	3	2	1	2	1	2	1	2	6	1	4	4	1		41
アオゲラ	再						3		1	2	1	1	1	2	2			1				1	1	1			17
コゲラ	新	2	1			1	1	1		4		2	4		1	3		5	1	3	4	3	2	4	3		45
コゲラ	再								2						1			1	1	1							6
ツミ	新							1				1				1	1						2				7
ハイタカ	新																					1					1
メジロ	新				1		1	4	1			6	6	3	1	4	3	5		4	7	12	8	23			89
アオジ	新																1						2	6			9
クロジ	新								1			2				1	3	1		1	1	1	1				12
シロハラ	新									1	6	2	1	4	1	5	7	1				1		2			31
モズ	新																						2				2

6. 考察

ソウシチョウが2015年から急増した考察

①外来種としての定着拡大

江戸時代頃にペットとして輸入飼育していたソウシチョウが一部で逃げ出し一気に繁殖し、その後、生息域が拡大し、それぞれの地域に定着していったため。

②繁殖力の高さ

ソウシチョウは繁殖する回数が多く、巣立ちする数も多い鳥で、一度環境に合うと個体数を増やすため、住みだすとしばらくして一気に数が増えることがあるため。

③環境条件の適合

ソウシチョウは草むらや低い木のある林が好きで、葛城山には下草やササなどが多く、すみやすい場所になっている。また、ほかの鳥との競争にも強く、食べ物も虫や実、種などいろいろ食べられるので生きていくのに有利なため。

④調査のしかたの影響

鳥類標識調査では鳥を調べるときには、網をしかける場所やまわりの草木の様子によって、とれる数が変わる。2015年前後にはソウシチョウが増えてよく動き回っていたため、網にかかる数も多くなり、調査の記録にも急に増えたように見えたと考えられるため。

エナガは2017年以降記録がない考察

原因として考えられることは、エナガの行動変化、環境変化による一時的な減少が考えられる。また、網の場所を覚える賢さがあるのかもしれない。

アカゲラの記録が一羽なのに対して、オオアカゲラやアオゲラ、コゲラはとても記録が多い考察

調査員の方達に聞くと、葛城山ではアカゲラが他のキツツキ類と比べて個体数が元々少ないようだ。さらに、鳥類標識調査によって捕獲されやすいかどうかは、鳥の行動にも関係すると思う。群れで行動するコゲラとは反対に、アカゲラは一羽で行動し警戒心も強いのでなかなか捕獲されないのではないかと思った。または調査の時期や方法とも合わないことがあるので、他のキツツキより見つかる数が少ない可能性もある。

バンディングでタカなどの大型の鳥はあまりかからない考察

霞網に大型の鳥がかかると突き破られたり、猛禽類などは鋭い嘴で網を破って一度網にかかっても出られてしまうため。

メジロなどの小型の鳥はとても多い考察

メジロなどの小型鳥は元々の個体数が多く、小型の鳥などは群れをなすので網に一度に多くの鳥がかかると考えられる。

アオジやクロジは最近記録が多い考察

原因として考えられることは、越冬する個体の増加が考えられる。普段、寒さがきびしいと低い山では食べ物がなくなってしまうので、もっとあたたかい場所に行って冬を過ごす。でも最近は冬があまり寒くなくなってきたので、低い山でも雪が少なく、草のタネや虫などの食べ物が残りやすく、しかも和泉葛城山には草むらやササが多くて、食べ物やかくれる場所もある。そのため、アオジはわざわざ遠くに行かなくても、和泉葛城山のような低い山で安心して冬をすごせるようになってきたと考えられる。

シロハラは2019年から少なくなっている考察

シロハラは冬鳥のため温暖化の影響で生息地が北上しているのではないかと思った。

小型だがモズの記録が少ない考察

モズは、「準絶滅危惧」に指定されていて、個体数が減少していると報告されており、個体数がもともと少ない。また、木のてっぺんに止まる鳥などはあまり地面に近い網にかかりにくいからではないかと思った。

7.感想

- ・アオジとクロジは冬鳥なのに増加しているから次はなぜ増加しているのか調べたいです。
- ・他にも温暖化の影響を受けている鳥がないのか調べたいです。
- ・一度捕獲された鳥が長い年月を経て同じ場所に帰ってくるのはとてもすごいことだなと思いました。
- ・ソウシチョウのように外から入ってきた鳥が増加したり減少したりすることもあり、自然の世界は人間の活動ともつながっているのだと感じました。
- ・今回の研究結果を通して、鳥をただ「きれいだな」と見るだけでなく、その数や暮らし方の変化から環境を考えることが大切だと思いました。これからは身近な自然をもっと注意深く観察して、大切にしていきたいです。

8.参考文献

- 1) 中村進(「きしわだ自然資料館」専門員・環境省委託事業 鳥類標識調査協力調査員)和泉葛城山のバンディング(鳥類標識調査)捕獲集計.2025年
- 2) 真木広造・大西敏一・五百澤日丸.日本の野鳥 650.平凡社.2014年
- 3) 榛葉忠雄.日本と北東アジアの野鳥.生態科学出版.2016年
- 4) 高野伸二.フィールドガイド 日本の野鳥.日本野鳥の会.1982年
- 5) 叶内拓也(解説)・斉藤博(発行者).フィールド図鑑 日本の野鳥 第二版.文一総合出版.2017年
- 6) 蕭木吉.臺灣野鳥手繪圖鑑.行政院農業委員會林務局・社團法人台北市野鳥學會.2022年
- 7) 山階鳥類研究所.渡り鳥と足環

https://www.yamashina.or.jp/hp/ashiwa/ashiwa_index.html